

青森県鶴田町の齊藤さん 町内各施設にりんごのプレゼント



りんごをもらって喜ぶ園児（鶴田保育所）

りんごのプレゼントが、12月25日（水）各小中学校、保育所、保育園、アルテンハイム鶴宮園、パラディーノほたるの里へ贈られました。これは、同名自治体として、姉妹都市盟約を締結している青森県鶴田町の齊藤常彦さんから「皆さんでおいしく食べてください。」とクリスマスプレゼントとして贈ってきたもので、今年で5回目となります。

このりんごは、減農薬で化学肥料を一切使わず栽培されており、今回はふじと王林24箱がプレゼントされました。

鶴田中学校 竹ぼうきうまく作れたよ

鶴田中学校でふれあい竹ぼうきづくりが行われました。これは、高齢者とふれあうことを目的として行われているもので、今年で21回目を迎えます。

今年は16人の高齢者が参加し、指導されました。生徒たちは、材料を持参し、手伝ってもらいながら約160本のほうきを完成させました。

3年生の四位優子さんは、「竹が固くてなかなかうまくいかなかった。身近な竹を使ってほうきができるとはすごいと思った。」また同じく3年生の赤木亜沙美さんは、「節を合わせて作る場所が難しかった。」と感想を話していました。作った竹ぼうきは、町内の各小学校にも寄贈されました。



高齢者の指導を受ける中学生

つるだ特産品販売所「自慢館」 入館者数が30万人を突破

特産品販売所「自慢館」の入館者が、12月27日（金）30万人を突破しました。30万人目に入館されたのは神子の井川タツ子さんと、記念品として花束、イワヒバ、竹籠に入った鶴田の特産品の詰め合わせが贈られました。

井川さんは、みそを買いに来られ、「びっくりしました。あび～る館で働いており、他の人がもらうのは見ていたが、まさか自分が30万人目になるなんて信じられません。ありがとうございます。」と大変喜んでいました。



右から3番目が井川さん

鶴田新ごぼう 販売額1億円を目指して初出荷



関係者によるテープカット

新ごぼうの出発式が、1月15日（水）柏原の野菜集荷場で、生産者、町、農協関係者約50人が参加し、行われました。

式では、大園米満ごぼう部会会長が「今年は1月の寒波の影響もありましたが、例年になく色つやのよいごぼうができました。安全・安心をアピールしながら今後も努力していきたい。」とあいさつされました。

その後、関係者によりテープカットが行われ、初出荷の250kgを乗せた輸送車を見送りました。

今年は、面積も増え、出荷量158トン、販売金額1億円を目指して4月上旬まで出荷されます。

鶴凧の会 たこあ 凧揚げを楽しむ

鶴田町鶴凧の会による凧揚げ大会が、1月11日（土）神子橋下流の河川敷で行われ、約30人が参加し凧揚げを楽しみました。揚げ始めたときは無風状態でなかなか揚がりませんでしたが、徐々に風が吹き始め、鶴凧が大空を優雅に舞うと、集まった人たちから歓声が上がっていました。

鶴凧の会は、青森県鶴田町との交流をきっかけに結成され、30代から70代までのいろいろな職種の人が集まり、鶴凧の製作に励んでいます。松元勇雄会長は「地元の竹を生かして、鹿児島島の鶴田なりの凧を作りたい。」と話していました。



大空を舞う鶴凧

小正月の行事 昔ながらの伝統を継承



高嶺のもぐら打ち

小正月の恒例行事の「もぐら打ち」が、1月14日（火）高嶺集落で行われました。もぐら打ちはもぐらの被害から家を守り、無病息災、五穀豊穡を願うもので高嶺集落では、長く実施していなかったものを、昭和55年に復活させ、伝承しています。この日は、大人と子供合わせて約25人が参加し、掛け声にあわせて、竹とわらで作ったもぐら打ち棒で各家庭の庭をたたいて回りました。

またアルテンハイム鶴宮園で「めのもち」が飾られました。園では、8年くらい前から飾られており、毎年恒例となっています。入所者も「桜の花がさいたようで、春がきたみたい。」と大変喜ばれていました。これは、2月の節分の日にあられにしてみんなで食べるそうです。



飾られためのもち